

節分



節分とは、本来、「**季節を分ける**」つまりは「**季節の変わり目**」のことを意味しています。
季節が移り変わる「**節目**」を指し、「**立春・立夏・立秋・立冬**」とそれぞれの前日を指すもので、**1年に4回**あったのです。

現在では「**節分**」と言えば、立春(毎年2月4日頃)の前日である**2月3日**(※年によって前後します)のみを意味するようになりました。

Q、節分に豆まきをするのはどうして？

節分の豆まきは、もともとは中国から伝わってきた風習で、
季節の変わり目には邪気(鬼)が生じると考えられており、その鬼を追い払う儀式として、
慶雲3年(706年)に宮中で初めて行われたそうです。

室町時代ごろには、冬から春になる時期を1年の境目とし、
「立春」は新年を迎えるのと同じくらい大事な日として重要視され、
豆をまいて鬼をはらう行事として庶民にも定着していきました。

節分の豆まきには、**個包装されたものを使用するなど工夫をし、
子どもが拾って口に入れないように後片付けを徹底しましょう。**



Q、柊鱒(ひいらぎいわし)ってなに？

魔除けのために飾られます。この場合の魔とは鬼(季節の変わり目に生じる邪気)のことです。昔から、臭いものや尖ったものには魔除けの効果があるとされていて、節分の場合は、焼いた鱒の頭を柊の頭を小枝に刺して作ります。鱒のにおいと柊の棘(とげ)によって、鬼が家の中に入ってくることを防ぐことができると考えられています。



Q、恵方巻きを食べる理由は？

恵方巻きの「恵方」とは、その年の福を司る神様、歳徳神(としとくじん)のいる方向のことをいいます。起源は、大阪の花街で商人が芸遊びをしながら商売繁盛を願って食べたのが始まりと言われてます。平成10年に大手コンビニが「恵方巻き」という名前で発売したことでその名前と習慣が日本各地に広まったと言われています。商売繁盛を願って食べていたのが始まりの恵方巻きですが、恵方を向いて1本まるごと食べることで無病息災や商売繁盛の運を「一気にいただく」ということを意味しており、途中で止めると「運を逃がす」とも考えられています。

